

◇◇ 近畿病院図書室協議会 ◇◇

第22回 総 会 報 告

近畿病院図書室協議会の平成7年度第22回総会は、1996年3月25日に淀川キリスト教病院オリブ棟3階会議室において開催された。例年どおり会議に先だち午後1時から2時まで特別講演があり、「コンピュータ・ネットワークの現状と展望」と題して山本隆一先生(大阪医科大学中央検査部助手)がインターネットについて解説された。

午後2時15分からの総会は出席会員21機関、委任状の提出51会員で開催された。白方誠彌会長の挨拶のあと、議長に笠原廣子(名古屋第一赤十字病院)、副議長に浜口恵子(高槻赤十字病院)、書記に須井麻由美(三菱京都病院)の各氏を選出し、議案審議に移った。議案7題はそれぞれ満場一致で可決された。

会長と事務局長は、2月の役員会で選出された牧野尚彦兵庫県立尼崎病院院長が会長に選出され、小田中徹也現事務局長が再選された。

なお、当日の総会終了後に、3月末をもって定年退職された白方誠彌会長の送別会を新大阪ワシントンホテル内のレストラン「チャイナ・テーブル」で開いた。会長として6年間、会を指導していただいたことに多数の有志で感謝した。

議案日程

- 議案Ⅰ 平成7年度活動報告
- 議案Ⅱ 平成7年度会計報告・監査報告
- 議案Ⅲ 平成8年度活動方針
- 議案Ⅳ 平成8年度事業計画
- 議案Ⅴ 平成8年度予算
- 議案Ⅵ 役員改選
- 小憩—
- 議案Ⅶ 会長・事務局長承認

議案Ⅰ 平成7年度活動報告

はじめに

まず、昨年1月の阪神・淡路大震災によって被災した会員への復旧支援活動は、新年度の4月からはボランティア参加者の調整、災害保険への加入、支援受入れ病院への手続きなどの準備を進めた。そして受入れ準備の整った5月末の2日間、二班に分かれ神戸市内の2会員へ延べ12名で配架作業の支援を行った。またこの震災に関しては、病院図書室における地震の被害とその対応を記録し、今後の貴重な資料とするため、会誌『病院図書室』誌上で2号にわたり特集記事を掲載した。さらに、秋には日本社会保険医学会や日本病院会全国図書室研究会などで関係者が報告した。

次に、研修会では新年度早々の4月26日、大阪府立母子保健総合医療センターにおいて第74回研修会を開催し、6月には初心者向け

の勉強会を開いた。続いて7月には第75回研修会を兵庫県立尼崎病院において開催し、8月には大阪府立看護大学附属図書館への見学会を企画した。秋に入り11月22日には第76回研修会を公立陶生病院で開催し、今年1月17日には大阪労災病院において第77回研修会を開催した。また、年次統計調査も例年通り実施し、9月にはその報告書を会員へ配布した。

このように大震災があったにもかかわらず、今年度も協議会の継続事業、特に会誌の発行と研修会の開催が例年どおり実施できたことは会員相互協力の賜物であり、大きな成果であったといえよう。ただし、懸案の医学雑誌の目録改定関連については残念ながら事業を進めることができなかった。これについては来年度からは外注など会員の負担を軽減する方向で実現を図りたい。

以上、病院図書室間の協力活動は平常の「図書館相互協力」において有効であるばかりでなく、今回の大震災では、災害時においても微力ではあっても有効だったといえよう。今後、新しい病院図書室の役割を担っていくためには、コンピュータ・ネットワークの導入も視野に入れ、図書館協力をさらに拡大強化していくことが重要と思われる。

I-1 各事業部報告

I-1-1. 研修部

[第74回研修会]

日時：1995年 4月26日（水）10:00～16:30
場所：大阪府立母子保健総合医療センター
会費：会員 1,000円 非会員 1,500円
プログラム

1. オンライン検索とCD-ROM検索の違い
特にJMEDICINEと医学中央雑誌を例に
講師 伊藤 勝
(株サンメディア)
2. ビデオ上映 “看護図書館”
3. [医学の基礎知識] 母子感染について

講師 北島 博之
(大阪府立母子保健総合医療センター)

4. 看護婦の利用促進のために 利用指導を中心として

講師 首藤 佳子
(星ヶ丘厚生年金病院図書室)

5. 日常業務についてのアンケート調査結果 報告

報告 研修部

参加者：21名（うち非会員3名）

[第4回勉強会]

日時：1995年 6月28日（水）10:00～16:00
場所：淀川キリスト教病院
会費：500円
プログラム

1. 図書室業務に必要な資料
講師 林 伴子
(社会保険神戸中央病院)
2. 相互貸借申込業務の基本-講義と実習-
講師 徳田 雅子
(大阪府立母子保健総合医療センター)
3. 相互貸借受付業務の基本
講師 田中 文子
(済生会兵庫県病院)
4. 日常業務についてのQ & A
司会 上川菜々子（大阪労災病院）
助言 山室真知子（京都南病院）

参加者：14名

[第75回研修会]

日時：1995年 7月27日（木）10:00～16:30
場所：兵庫県立尼崎病院
会費：会員 1,000円 非会員 1,500円
プログラム

1. NACISISについて
講師 米澤 誠
(学術情報センター)
2. 複写機 デモンストレーション
(株ミノルタ)
3. [医学の基礎知識] 災害と心のケア
講師 東原 繁樹

(社会保険神戸中央病院)

4. 図書管理システム MaKLISマクリスの紹介

講師 石川 雅基

(㈱三菱総合研究所グループシステム21)

参加者：25名 (うち非会員1名)

[施設見学会]

日時：1995年 8月25日 (金) 13:30～15:30

場所：大阪府立看護大学附属図書館

参加者：11名 (うち非会員2名)

[第76回研修会]

日時：1995年11月22日 (水) 10:45～16:00

場所：公立陶生病院

会費：会員 1,000円 非会員 1,500円

プログラム

1. 公立陶生病院図書室の概要

報告 伊佐治裕子 (公立陶生病院)

岩瀬真奈美 (公立陶生病院)

2. 日本十進分類法新訂9版の看護分野に

ついての評価

講師 山添 美代

(厚生省看護研修センター講師)

3. 和雑誌特集記事データベースの紹介

講師 松下 茂 (㈱サンメディア)

湯浅智之 (㈱サンメディア)

参加者：18名 (うち非会員2名)

[第77回研修会]

日時：1996年 1月17日 (水) 10:00～16:00

場所：大阪労災病院

会費：会員 1,000円 非会員 1,500円

プログラム

1. 単行書の分類：NLMC 5th ed. について

講師 松本 純子 (住友病院)

2. 複写機 デモンストレーション

(㈱富士ゼロックス)

3. [医学の基礎知識]

クラッシュシンδροーム

講師 滝沢 洋之

(社会保険神戸中央病院)

4. 効率のよい雑誌管理

①雑誌の受け入れ手順について

報告 上川菜々子 (大阪労災病院)

②短期貸出利用のための装備とシステム

報告 徳田 雅子

(大阪府立母子保健総合医療センター)

③長期部署貸出の必要性和問題点

報告 山室真知子 (京都南病院)

座長 熊井亜由美 (兵庫県立尼崎病院)

参加者：26名

[第78回研修会]

日時：1996年 3月25日 (月) 10:00～12:00

場所：淀川キリスト教病院

会費：500円

プログラム [事例・研究報告会]

1. 阪神大震災後一年間のあゆみ

井川 美幸 (神戸労災病院)

2. 製薬会社の文献サービス自粛後の当院の

対応 - 文献依頼統計 -

- CD-ROM使用統計 -

山崎 捷子 (淀川キリスト教病院)

3. パソコンを利用した相互貸借

成田 元樹 (耳原総合病院)

4. 図書室の業務報告書 (月報) を

作成して

木下久美子 (高山赤十字病院)

5. 相互貸借の謝絶理由の分析

山室真知子 (京都南病院)

座長 林 伴子 (社会保険神戸中央病院)

参加者：26名

今年度は前年度1月に中止したプログラムの一部を4月に再度企画したために、結果的には例年より1回多く開催したこととなり、支出が予算を上回ってしまった。

初めての取り組みとしては、新たな会場設定があげられる。4月の大阪府立母子保健総合医療センター、7月の兵庫県立尼崎病院、11月の公立陶生病院、1月の大阪労災病院と、いずれも研修会会場としては初めての地域での開催となった。なお、1989年から1993年まで毎年1回開催されてきた名古屋研修会を、通

常研修会のひとつとして開催したことは、今年度からの取り組みである。

看護分野についての講義は、図書室利用者としての看護職への情報提供にどう取り組むかを、考えるよい機会となった。情報の新メディアをめぐる動向や、図書室業務の効率化に役立つような新機器の紹介などを内容に組み込むことで、以前は手の届かなかった新システムが実現可能となってきたことを知る手だてとなった。資料の分類法については、米国立医学図書館分類法(NLMC)が1994年に、日本十進分類法(NDC)が1995年に、とそれぞれ改訂されたことを受けて講義を企画した。日常業務についての素朴な疑問点を意見交換する機会を設け、さらに複数の図書室を見学することで、業務の再確認と新発見ができた。

本年も、研修会で使用した資料は研修会終了後に研修部で保管し、後日、希望があれば複写して提供した。第75回からは、研修会の全内容をビデオ収録している。様々な事情で研修会参加が困難な会員も研修会をビデオで視聴可能なので、必要な方は研修部に問い合わせさせて頂きたい。

今年度より研修部員として大阪労災病院の上川菜々子さんが加わり、部員5名による毎月一回の研修部会議で、様々な会員の要望に応え得る研修内容をと議論を重ねた。

企画運営が思うように運ぶこともあれば、十分に議論を尽くしてことにあたったはずの構想が外れることもある。第76回では内容の大幅変更が度重なり、日程も確定せずに会場提供機関に迷惑をかけてしまった。深く反省し今後の教訓としたい。

加盟機関が106機関にもなり、研修会案内を発送している非会員数を加算すると研修部での発送作業量が増大し、発送担当者の負担が増えている。何らかの対策を講じる必要がある。

次年度は、春の新任者向け勉強会を研修のスタートとしたいので、関係者の出席についてご協力をお願いしたい。

I-1-2. 編集部

今年度は15巻1号～4号」を発行（1、2号は合併）した。主な特集記事として、1、2号で「地震と病院図書室」、3号で「阪神大震災その後」、4号で「看護と文献」を掲載した。総ページ数は175ページとなった。

今年度を総括すれば主な点は、以下の通りである。1. 編集体制の弱体化 2. 発行の大幅な遅れ 3. 編集方針に基づき誌面作りに努力した 4. 出稿時のフロッピー渡しの定着化 である。

1. 各号の発行日、頁数、発行部数

15巻1,2号 (1995/ 8/11発行)	67p	300部
15巻 3号 (1995/11/24発行)	50p	300部
15巻 4号 (1995/12/28発行)	58p	300部

2. 発行経費

会誌15巻1号～4号に要した費用は、1,184,480円であった。予算1,200,000円に対して、15,520円、若干の黒字である。これは、1、2号が編集部の作業の遅れと震災のため発行が遅れ、合併号としたことがその大きな原因といえる。

3. 広告収入

[年間契約]

厚生社 (B 5 1/2)	15(1-2)～16(1)	20,000円
サンメディア (裏表紙)	15(3)～16(2)	80,000円
ナカバヤシ (B 5)	15(1-2)～16(1)	39,279円
ベルブック (B 5)	14(4)～15(4)	40,000円

[単発契約]

ユサコ (B 5)	15(1-2)	12,000円
	合計	191,279円

4. 編集体制

部員個々の日常業務量の増大、不安定な勤

務状況が続く中で、昨年度は部員を増員し、2グループ制としたが、今年度は部員個々の更なる業務の増大で2グループ制で編集作業をおこなうことができなかつた。これにより編集にかかる実務量が増大し、部員にはかなりの負担となった。

その中でも、出稿時のフロッピー渡しを定着させることにより、校正や、レイアウトにかかる労力を大幅に軽減することができた。このことは、労力の軽減だけではなく、正確な誌面作りに大きく貢献することとなった。

その他、よりよい誌面作りをめざして、部内での編集に関する学習会を開催した。

新年度は、部員を新たに増員し、2グループ制も含めた体制の見直しをおこない、作業内容の省力化など改善をはかっていきたい。

編集会議は、今年度3回、開催日程等は以下の通りである。

- H7.7.11 15巻3, 4号の発行について
[淀川キリスト教病院]
- H7.9.21 部内学習会、15巻4号の発行について
[県立尼崎病院]
- H8.2.23 総括方針、16巻1号以降の発行
[県立尼崎病院]

5. 編集方針

今年度の編集方針は、「病院図書室に根ざして図書館員に身近な記事作りをめざす」であった。特集“地震と病院図書室”で図書室の被災状況やその後の復興について取り上げ、特集“看護と文献”では、看護婦の利用促進を取り上げることができた。

来年度の編集方針は、「これまでの方針を引き継ぐ中で、新たに病院図書室のあり方についても模索していく記事作りをめざす」こととした。具体的には、“病院図書室がおこなう患者サービスについて”“これからの病院図書室に求められる図書館員の姿”など取り上げていきたい。

6. 発行について

15巻3号の2ヶ月半の遅れを最高に、発行の遅れが目立った。大きな原因は、編集体制にある。部員個々の編集業務量の軽減に努力しながら、定期発行が可能な体制を築いていくことが重要である。

7. 今後の課題

今後の課題については、これまでも述べてきたが、以下の2点について重点をおいて取り組んでいきたい。

(1) 編集体制の確立

日常業務の増大や、不安定な勤務形態の中で、定期発行をめざし編集をおこなっていくことは極めて困難な状況にあるが、新年度は新たに部員を増員し、それぞれの実情を理解しながら協力して編集にあたっていきたい。

(2) これからの病院図書室のあり方について 模索

医療環境や図書館、情報関連分野の環境が大きく変化している。病院図書室も新しい状況への対応がせまられているといえる。これらの変化の中で求められる病院図書室像を誌面上で模索していきたい。

I-1-3 統計調査部

【重複雑誌目録の発行】

- a. 調査対象:1994年1-12月発行の重複雑誌
- b. 作業経過:1995.6.12 調査用紙発送
(100施設)
1995.7.20 回答締切
1995.9.22 目録発送(104施設)
- c. 回答施設:31施設(回答率30%)
- d. タイトル数 :260誌(国内88種 外国172種)
- e. 印刷費:3000円(120部)

【図書室統計調査報告書の発行】

- a. 調査対象期間:(1994年4月~1995年3月)
- b. 調査項目:施設の現況/図書室施設/

職員・組織/蔵書/経費/整理業務/利用者サービス/相互貸借/二次資料の所蔵
広報活動/視聴覚資料・所有機器

- c. 作業経過: 1995.6.12 調査用紙を発送(104施設)
1995.7.20 回答締切日
1995.9.22 報告書の発送(104施設および病院図書室ネットワーク関係15機関)
- d. 参加施設 :75施設(参加率72%)
- e. 印刷費 :10,000円(150部)
*重複雑誌と年次統計の調査用紙およびその結果を一括して発送した(送料31,470円)。送料節約のため、来年度も同じ方法で行いたい。
- f. 文献の相互貸借(協議会全体の件数)

-受付-	
協議会加盟	11,480件
協議会加盟外	1,116
上記区別無し	391
<hr/>	
合計	12,987件
-依頼-	
協議会加盟	9,754件
JMLA加盟館	13,799
海外(BLDSC等)	21
その他	3,695
上記区別無し	2,715
<hr/>	
合計	29,984件

*前年度に比べ、受付件数は45%、申込件数は31%の増加となっている。

I-2 組織活動

I-2-1. 幹事会

今年度は、次に挙げた日程で定例6回の幹事会を開催した。以下、主議題のうち各事業報告については省略した。

回	日程	会場	主議題
①	95/04/20	淀川キリスト教病院	幹事役割分担、被災会員への支援活動
②	95/06/08	国立京都病院	会員異動の連絡処理
③	95/08/03	星ヶ丘厚生年金病院	各事業活動についてのみ
④	95/10/05	淀川キリスト教病院	パソコン通信の導入化
⑤	95/12/14	国立京都病院	近畿地区医学図書館協議会との協力提携、パソコン通信の現況、年度末の日程
⑥	96/02/09	淀川キリスト教病院	今年度の事業総括、新年度の活動計画、総会準備

I-2-2. 役員会

平成8年2月26日、淀川キリスト教病院で開催した。会長挨拶に続き、事務局と各事業部から今年度の事業活動について報告があった。そのうち、研修部と会誌編集部の報告について、一部修正し総会議案書としてまとめることにした。また、来年度の予算案についても若干の補正と新たに予備費を設定することにした。

平成8年度の会長には、兵庫県立尼崎病院の牧野尚彦院長を選出し、同じく事務局長には国立京都病院図書室の小田中徹也現事務局長を再選し、第22回総会に諮ることになった。

I-2-3. 会員の状況

会員数:106機関(近畿外;31機関、病院外;7機関)

異 動：入会；3機関

内訳(入会順)

27040 徳州会野崎病院

28025 市立川西病院

23010 名古屋徳州会病院

退会；なし

I-2-4. 対外交流

近畿地区医学図書館協議会の例会では、第62回例会(04/28 滋賀医科大学)へは欠席したが、第63回例会(07/28 京都大学)には事務局の小田中徹也と幹事の首藤佳子が出席した。また、第64回例会(10/27 京都府立医科大学)へは事務局の小田中徹也と会員の須井麻由美が出席した。さらに、第65回例会(96/03/01 関西医科大学)へは事務局の小田中徹也と幹事の前田元也が出席予定である。今年度、近畿地区医学図書館協議会では会則の全面的な改定作業をおこなっているが、当協議会との協力提携のありかたも会則に反映されるようであり、その明文化について打診があった。

さらに、昨年12月8日には大阪大学附属図書館生命科学分館において近畿地区医学図書館協議会主催の第1回シンポジウムが開催された。このシンポジウムには当協議会からシンポジストとして首藤佳子氏が口演するとともに、会員からも13名が参加した。

日本医学図書館協会の第66回総会(95/05/18 聖マリアンナ医科大学)への出席については、1月末参加申込みの締め切りであったため阪神大震災後の見通しも不明のため、出席を見合わせた。しかし、今年度の日本病院会全国図書室研究会(09/28,29東京)の後援名義の使用とシンポジスト派遣については協力した。また、今年2月10日、聖路加国際病院で開催された病院図書室研究会の創立20周年記念式典には会長代理として事務局長が祝辞を述べるとともに、協議会からは幹事2名がお祝いに列席した。

以上、対外交流においても積極的に活動した1年であったといえよう。

I-2-5. 学会・論文発表

[学会発表]

(1)第12回医学情報サービス研究大会

(7月 長崎)

L-pal システムの利用を試みて

京都南病院 山室真知子

(2)日本病院会全国図書室研究会

(9月 東京)

シンポジウム「危機管理と司書の役割」阪神大震災と司書

国立京都病院 小田中徹也

(3)第33回日本社会保険医学会

(10月 名古屋)

ミニシンポジウムⅢ「阪神大震災の教訓—広域災害時における医療体制のあり方」阪神淡路大震災における病院図書室の被害状況

星ヶ丘厚生年金病院 首藤佳子

(4)近畿地区医学図書館協議会第1回シンポジウム(12月 吹田)

シンポジウム「21世紀における医学図書館」

デジタル情報社会における病院図書室の戦略

星ヶ丘厚生年金病院 首藤佳子

[論文執筆]

(1)山室真知子(京都南病院)

患者図書サービスからみた健康・医療情報

医学図書館55(1):55-58,1995

(2)山室真知子(京都南病院)

「病院管理フォーラム」

病院における患者図書サービス

病院54(5):498-499, 1995

- (3)山室真知子(京都南病院)
文献入手における代行サービスの利用
ほすびたる・らいぶらりあん
20(3):110, 1995

- (4)山室真知子(京都南病院)
(患者と医療者のコミュニケーション)
—選択提供か自由閲覧か、病院図書室
解放に課題—
毎日新聞 広域版 1995.9.16(土)
朝刊10面

- (5)小田中徹也(国立京都病院)
種別図書館概況「病院図書室」:近畿
病院図書室協議会
図書館年鑑1995年版(日本図書館協会)

- (6)小田中徹也(国立京都病院)
病院図書室研究会創立20周年のお祝い
ほすびたる・らいぶらりあん
20(1):4, 1996

- (7)首藤佳子(星ヶ丘厚生年金病院)
デジタル情報社会における病院図書
室
ほすびたる・らいぶらりあん
21(1)25-29, 1996

- (8)浜口恵子(高槻赤十字病院)
近畿病院図書室協議会20年の歩み
病院54(10):987, 1995

I-3 会員委託サービスセンター

I-3-1. B L L Dセンター

(1995.2.1~1996.2.20)

本年度は1施設(日生病院)のみの利用で
あった。このリクエストも謝絶のため、クー

ポンおよび現金の出納はなく双方とも残高は
前年度と変わらなかった。

クーポンの残り枚数 33枚
現金残高 51,440円

議案Ⅱ 平成7年度近畿病院図書室 協議会会計報告・監査報告

(次頁)

議案Ⅲ 平成8年度活動方針

この3年間、病院図書室とりわけ当協議会
にとっては激動の3年間であったといえよう。
すなわち、1994年春の製薬業界の営業活動の
自粛と病院図書室への業務的影響、1994年秋
の創立20周年記念事業、そして昨1995年1月
の阪神・淡路大震災では多くの会員が未曾有
の災害を被った。一方この間、情報メディア
とコンピュータ・ネットワークは大きく急速
に変貌を遂げ、今日の病院図書室においては
コンピュータを抜きにはサービスや業務を考
えられなくなってきている。このように社会
や情報形態の基盤を揺さぶるような動きの中
で、今後の病院図書室の機能や協議会活動の
形態について、改めて考えてみる必要がある
だろう。

まず、協議会の継続事業である研修会の開
催と会誌『病院図書室』の発行、年次統計調
査は従来どおり実施する。なお、震災によっ
て中断した総合目録と現行所在目録の改定に
ついては、データ収集、編集方法、データ入
力、発行形態など全面的に再検討し、確実に
継続的に発行できるよう対策をたてなければ
ならない。そのためには編集発行体制を整え、
作業の外注など会員の負担軽減と効率化を図
る。

平成7年度近畿病院図書室協議会会計報告

(収入の部)

単位=円

費 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
前年度繰越金	<u>1,096,822</u>	<u>1,096,822</u>	
会 費	<u>2,090,000</u>	<u>2,080,000</u>	H7 103会員 2,060,000 入会金 2会員 20,000
事業収入	<u>392,500</u>	<u>379,000</u>	
会誌購読会費	(270,000)	(258,000)	H7 43会員 258,000
研 修 会 費	(122,500)	(109,000)	第73-77回研修会費, 第4回勉強会会費
そ の 他	—	(12,000)	会誌バックナンバー売上
そ の 他	—	<u>192,135</u>	広告掲載料 銀行利息
合 計	<u>3,579,322</u>	<u>3,747,957</u>	

(支出の部)

単位=円

費 目	予算額	決算額	差引増△減	摘 要
総 会 費	85,000	53,310	31,690	選挙・議案書費用 特別講演謝礼・交 通費
事 務 費	100,000	48,122	51,878	フィルム代, 現像料, 封筒印刷代, 年賀 状, 他
通 信 費	120,000	60,770	59,230	事務局, 各部会連 絡, 会員宛通信費
交 通 費	500,000	405,099	94,901	監査, 幹事会, 各部会, 研究会, 病図研20周年参加
事 業 費	1,840,000	1,519,976	302,024	
会誌発行費	(1,200,000)	(1,184,480)	(15,520)	会誌15巻1-4・訂正 紙印刷費, 発送費 (15)1-4, 図書券
研 修 会 費	(240,000)	(291,026)	(▲51,026)	第73-77回研修会 第4回勉強会, 見 学会
総合目録改版 準備費	(100,000)	(0)	(100,000)	
その他の事業	(300,000)	(44,470)	(255,530)	重複雑誌目録 年次統計調査
資 料 費	150,000	146,452	3,548	Union Catalog 学術雑誌目録
雑 費	784,322	25,130	759,192	研究会保険料 弔電, 他
合 計	3,579,322	2,258,859	1,320,463	

平成7年度 会計監査

単位=円

収 入	金 額	支 出	金 額
前年度繰越金	1,096,822	総 会 費	53,310
会 費	2,080,000	事 務 費	48,122
事業収入	379,000	通 信 費	60,770
会誌購読会費	(258,000)	交 通 費	405,099
研 修 会 費	(109,000)	事 業 費	1,519,976
そ の 他	(12,000)	会 誌 発 行 費	(1,184,480)
そ の 他	192,135	研 修 会 費	(291,026)
		総 合 目 録 改 定 版 準 備 費	(0)
		そ の 他 の 事 業	(44,470)
		資 料 費	146,452
		雑 費	25,130
		翌年度繰越金	1,489,098
合 計	3,747,957	合 計	3,747,957

上記決算については、会計監査を終了しました。

平成8年3月21日

会計監査 伊藤りつ子 ㊟
松原康子 ㊟
上川菜々子 ㊟

次に、ここ数年、社会全般あらゆる分野の組織や個人においてパソコンの浸透はめざましいものがあり、業務への導入はもとよりマルチメディアやインターネットなど新しい情報メディアとテクノロジーが急速に普及している。情報を扱う図書館関係者はその機能や操作を単に修得するだけでなく、率先して図書館利用者へのサービスに生かすことを考え

ていかなければならない。協議会としても会員担当者のエンドユーザーとしてのコンピュータ技術の修得と向上のため、研修会や会誌などの場で系統だてて啓蒙していくことが必要である。また、個々の会員の教育だけでなく、協議会活動においてもコンピュータ・ネットワークの導入を検討し、その実現化に向けて準備を進めたい。

議案Ⅳ 平成8年度事業計画

1. 医学文献情報活動の推進
「医学雑誌総合目録」改訂版発行の準備、
現行所在目録の発行
2. 教育研修活動の継続
定例研修会・勉強会の開催、諸研究研修
会への案内と参加奨励
3. 出版広報活動の継続
会誌『病院図書室』の季刊発行
4. 年次統計等の調査活動
年次統計と相互貸借の調査、重複雑誌目
録の作成
5. コンピュータ・ネットワークの導入
パソコン通信への参加準備と具体化作業

議案Ⅴ 平成8年度予算

(次頁)

議案Ⅵ 役員改選

選挙管理委員により平成7年度役員改選が行われ、幹事10名と会計監査2名が選出された。新役員は以下のとおりである。

◎幹事

井川 美幸 (神戸労災病院)
大橋真紀子 (社会保険中京病院)
木下久美子 (高山赤十字病院)
首藤 佳子 (星ヶ丘厚生年金病院)
田中 文子 (済生会兵庫県病院)
林 伴子 (社会保険神戸中央病院)
前田 元也 (西淀病院)
松本 純子 (住友病院)
山崎 捷子 (淀川キリスト教病院)
山室真知子 (京都南病院)

◎会計監査

伊藤りつ子 (和歌山労災病院)
松原 康子 (藍野学院短期大学)
上川菜々子 (大阪労災病院)

議案Ⅶ 会長・事務局長承認

会長は牧野尚彦氏 (県立尼崎病院院長)、
事務局長には小田中徹也氏 (国立京都病院司
書) がそれぞれ承認された。

以上をもって第22回総会を閉会した。

平成8年度予算案

(収入の部)

(支出の部)

単位=円

費 目	金 額	費 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	1,489,098	総 会 費	85,000	選挙費用, 議案書 費用, 特別講演謝 礼, 交通費
会 費	2,180,000	事 務 費	100,000	振込料, 封筒印刷 年賀状印刷, 他
平成8年度	@20,000×105	通 信 費	120,000	事務局・各部会連 絡, 会員通知用
平成5,6,7年度未納	@20,000× 3	交 通 費	500,000	役員会, 幹事会, 各部会, JMLA近畿 地区例会, 他
入会金未納H5	@10,000× 1	事 業 費	2,100,000	
” H7	@10,000× 1	会誌発行費	(1,300,000)	会誌「病院図書室」 16巻1-4号印刷, 送料, 執筆料
事業収入	401,500	研 修 会 費	(300,000)	定例研修会3回, 事例報告会, 勉強 会
会誌購読会費	(294,000)	総合目録改版 準備費	(100,000)	雑誌総合目録改版 (国内・外国編)
平成8年度	@ 6,000× 46	その他の事業	(400,000)	年次統計報告H7年 重複雑誌目録H8年 現行雑誌所在目録 コンピュータネットワーク準備 費
平成7年度未納	@ 6,000× 3	資 料 費	150,000	医学洋書総合目録
研 修 会 費	(107,500)	予 備 費	1,000,000	
定例研修会	@1,000×25×3	雑 費	195,598	慶弔費, 接遇費他
事例報告会	@ 500×35			
勉強会	@1,000×15			
そ の 他				
そ の 他				
広告掲載料	180,000			
合 計	4,250,598	合 計	4,250,598	